

特技懇誌の歴史

特技懇誌は、「特許庁技術懇話会々報」として昭和33年（1958年）7月15日に復刊第1号が発行され、それから50年で第250号を迎えることができました。今号では、第250号を記念して、我が国における知的財産制度の略歴とともに、特技懇誌の主な記事を振り返ってみました。

特許庁技術懇話会の会報は、前述の復刊第1号以前にも発行されており、その第1号が昭和25年10月1日に発行されました。この第1号には、「発刊の言葉」として、次のように記載されています。

「技術懇話会は科学技術に基づいた行政の運営、技官の地位、素質の向上等の点に存在意義があるが最近の活動方向は地位の向上のみ限定されて来た観がある。技術者の見解を行政上に強く反映する為には地位向上も勿論必要であり、今后も努力すべきではあるが此の裏付けとなる素質の向上は当然我々の義務として強調されねばならない。

デスク・エンジニアである我々に実地教育も必要であるが技術上の見識理解を特許行政の上に反映するのに最も必要なことは『特許行政の在り方を把握する』事である。従つて此の線に沿つて会のエネルギーの一部を使ふべきであり、此の会報は此のエネルギーが生んだものであるから会報発表に御盡力を願ふ次第である。」（原文のとおり）

この「発刊の言葉」は、今から58年前の特技懇の会員数が170名の時のものではありませんが、その精神は現在においても、十分に通用するものであるといえるでしょう。

ここで、特技懇誌の体裁について振り返ってみますと、当初は、B5版で8頁程度の分量でした。昭和35年6月7日発行の第11号より「特技懇」という題字が登場し、会報は次第に「特技懇」と呼ばれるようになりました。平成11年8月13日発行の第207号よりA4版となり、現在のような体裁になりました。

最後に、特技懇誌は、時代の要請に立脚し、会員のニーズに応じて必要な情報を提供することを目的としていますが、右の年表をみますと、まさに、その役割を十分に果たしているといえるのではないのでしょうか。



（編集委員会）

特技懇



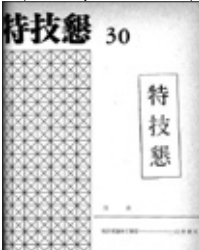


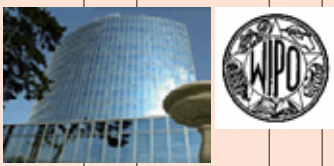
元機械部長 三根繁太氏による題字
第11号から第29号の表紙に掲載




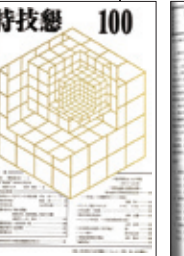





発刊の言葉
幹事会
技術懇話会は科学技術に基づいた行政の運営技官の地位素質の向上等の点に存在意義があるが最近の活動方向は地位の向上のみ限定されて来た観がある。技術者の見解を行政上に強く反映する為には地位の向上も勿論必要であり、今后も努力すべきではあるが此の裏付けとなる素質の向上は当然我々の義務として強調されねばならない。
デスク・エンジニアである我々に実地教育も必要であるが技術上の見識理解を特許行政の上に反映するのに最も必要な事は特許行政の在り方を把握する事である。従つて此の線に沿つて会のエネルギーの一部を使ふべきであり此の会報は此のエネルギーが生んだものであるから会報発表に御盡力を願ふ次第である。



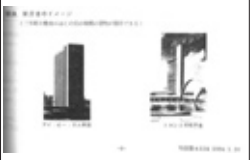





昭和25年10月1日発行の会報に記載された「発刊の言葉」

1880-						1900-	1920-	1930-	1940-	1950-				
1883	1884	1885	1886	1887	1899	1905	1921	1933	1945	1949	1950	1954	1958	
M16	M17	M18	M19	M21	M32	M38	T10	S8,9	S20	S24	S25	S29	S33	
<p style="text-align: center;">特許庁技術懇話会々報 1 25.10.1</p>  <p>現存する「特許庁技術懇話会々報」第1号第1頁(総4頁)。※第1号編集後記によれば、この第1号以前にも会報が発行されていた模様。</p>						<p>「技術者運動」の一環として特許庁技術懇話会発足</p>			<p>1号</p> <p>「特許庁技術懇話会々報」第1号発行 会員170名</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆顧問 ◆審判部 ◆官房・総務部 ◆陳列館 ◆特一部(意匠・商標?) ◆特二部(特許・実用新案?) <p>12910 2 9 17 3 名 名 名 名 名</p>			<p>1号 復刊</p> <p>2号</p> <p>昭和29年10月号の後、暫く休刊</p> <p>「特許庁技術懇話会々報」復刊第1号発行</p> <p>「審査・審判職の待遇上の問題点」</p>		
						<p>知的財産制度の歴史</p>						<p>通産省特許庁となる</p>		
<p>世相</p>						<p>パリ条約締結</p> <p>商標条例制定</p> <p>専売特許所設立</p> <p>専売特許条例制定</p> <p>ベルヌ条約締結</p> <p>意匠条例制定</p> <p>加盟</p> <p>日本、パリ条約・ベルヌ条約に</p> <p>実用新案法制定</p> <p>特許法等改正(先願主義導入)</p>			<p>太平洋戦争終結</p>			 <p>旧庁舎。『三年町庁舎』と呼ばれ、現在の特許庁と同じ場所にあった。</p>		


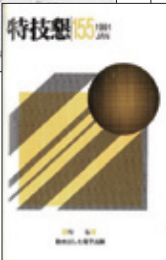

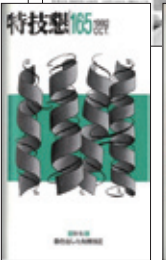
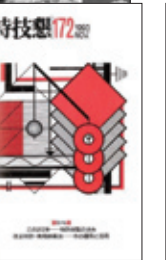




特許懇誌の歴史

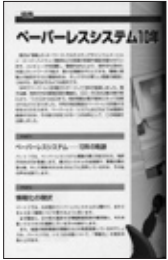







1950-		1960-				1970-								
1958	1959		1960	1964	1967	1968	1970			1971				
S33	S34		S35	S39	S42	S43	S45			S46				
4号	号外	7号	12号	13号	27号	28号	33号	35号	37号	38号	45号	46号	49号	
「ノルマ決定の時期を迎えて」	「国会特報」(四法改正に関するもの)	「審査審判処理促進総合対策について」	「滞貨の処理について」	昭和33年5月、庁内に研修所新設。昭和34年法の実施に伴い、審査官・審判官の資格の基礎的要件として、研修所が定める研修を終了することが必要となる。	「コース研修を受けて」	判決紹介等の学術的内容が掲載され始める	「出願傾向の予測について」	「特許行政高度化の必要性 事務機械化の基本的理念」	「調印された特許協力条約」	会報復刊後20年記念号	昭和40年代初頭から、次長設置・技監設置運動が活発化。	「特許庁における次長制新設に関する要望書」	「ソフトウェアおよび植物の新品種の保護の問題について」	「庁舎移転計画案について」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 特許懇 第11号より「特許懇」の題字が使用される。 </div>														
														
工業所有権に関する四法改正 (特許・実用新案・意匠・商標)								特許法等改正(審査請求制度・早期公開制度導入) 世界的所有権機関(WIPO)設立 特許協力条約(PCT)調印						
				東京オリンピック開催 東海道新幹線開通		大阪万博開催								
								スイス・ジュネーブの WIPO本部						

1970-							1980-				
1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1981				
S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S56				
52号	57号	63号	67号	73号	80号	84号	100号	103号	104号	105号	107号
「技監制度の発足にあたって」	「物質特許及び多項制」	「物質特許特集」	「国際特許分類」 従前は日本特許分類（JPC）等が採用されていたが、昭和45年頃より国際特許分類（IPC）が公告に付与され始める。	「電算機利用の現状と問題点」	「ソフトウェア関連発明の特許性」	「憂慮される「滞貨」の再燃」 「有効な処置を早期に実行しない限り、再び特許庁を滞貨の山が襲つことになる。」と言及。	「100号記念特集」	「制度改正に向けて（I）——請求の範囲及び多項制——」	「制度改正に向けて（II）——明細書及びその補正——」	「制度改正に向けて（III）——審査および審判制度——」 単一性の条文について「特許出願は、一の発明又は単一の一般的な発明概念を形成するような一群の発明毎にしなければならない。」とすること等の具体的改正案を提案。	「情報特集」 来年度のペーパーレス計画をにらみ、「審査業務から見たサーチ業務の機械化に関する考察」等の記事を掲載。
											
知的財産制度の歴史 特許技監設置	ヨーロッパ特許条約締結	日本、世界的所有権機関へ加盟 ストラスブール協定発効 特許法等改正（物質特許・多項制導入）	日本、ストラスブール協定を批准	欧州特許庁（EPO）設立	日本、特許協力条約を批准 国際出願開始						
世相 第一次オイルショック		オランダ・ハーグのEPO Tower and Hinge Buildings					スペースシャトル打ち上げ成功				

1980-								
1983			1984			1985		1986
S58			S59			S60		S61
別冊 108号	111号	113号	114号	115号	116号	120号	122号	126号
「今後の特許行政のあり方」	「第3期庁舎の完成を目前にして」	「特許情報特集」 「日米特許摩擦について」	「新庁舎 望ましい審査室イメージ」 昭和58年度に試行段階に入ったペーパーレス計画によって、公報等のサーチ資料に代わって各種の端末機が室内に多数配置された状況となることを想定し、オープンタイプの基本レイアウトを提案。	「国内優先権を望む企業から見た戦略的意義」 PCT加盟に先立って、昭和51年に派遣されたPCT調査団における知見等から、欧米各国における国内優先権制度の歴史的背景や効用、制度の導入に伴って検討すべき事項を藤沢薬品工業株式会社特許室室長よりご寄稿をいただいた。	「高まる摩擦 植物特許問題をめぐって」 「委員会レポート 機械検索について」	「実用化進むバイオテクノロジー」	特許制度百周年記念号「特別企画」井深大氏・本田宗一郎氏に聞く 特許制度百周年を記念し、井深大氏と本田宗一郎氏へのインタビューを、脚本家西澤裕子氏をインタビュアーに18ページに及び掲載。	「特集・意匠」
								
ペーパーレス計画			特許特別会計設置			工業所有権制度百周年 IPC充足 特許法等改正（国内優先権制度等の導入） 半導体回路配置保護法	昭和60年 発明の日ポスター	
田中角栄ロッキード事件で実刑 大韓航空機墜落事件 東京ディズニーランドオープン				新日本銀行券発行 グリコ・森永事件			工業所有権制度 100年記念切手等	三原山噴火 若王子さん事件

1980-				1990-		
1987		1988		1989	1990	
S62		S63		H1	H2	
133号	134号	137号	139号	141号	144号	148号
<p>「審査・審判部門の新しいオフィス環境を考える」 「ハイテク最前線」バイオセンサー」</p> 	<p>「盛大に昭和62年度特技懇親会開催」</p>	<p>「ペーパーレス計画」</p> <p>ペーパーレス計画5年目という節目を迎え、三極のペーパーレス計画進捗状況や今後の展開についての特集。</p> 	<p>「迅速・的確な審査処理を求めて」</p> <p>出願、審査請求数の増加等に加えて、ペーパーレス過渡期における業務負担の増大により昭和56年度以降一貫して審査請求数が審査処理件数を上まわってきたことから、このままの推移ではペーパーレス計画の完成する昭和68年度末においては、審査処理期間が5年余りに達することが見込まれる旨を解説。今後の施策の基本的方向性として、昭和64年度を目処にサーチ外注を本格的に実施すること等を挙げている。</p>  	<p>「総合庁舎と審査業務」</p> <p>新庁舎完成を目前に控えて、新庁舎の執務イメージ等の特集。</p>  <p>特許庁 新庁舎</p>	<p>「IPCCの活動」</p> <p>特技懇誌で初めてのIPCC関連記事。Fタイム付与やFタイムによる検索の他、半導体回路配置利用権の登録を主な業務としている旨を紹介。</p>	<p>「ペーパーレス第二段階を迎える — 審査周辺業務の機械化 —」</p> <p>特許法等改正（電子出願制度・要約書の採用等）</p>
<p>特許法等改正（改善多項性・特許権の存続期間の延長制度等導入）</p>		<p>青函トンネル開通</p>			<p>消費税スタート ベルリンの壁崩壊 天安門事件</p>	
<p>特技懇誌の歴史</p>						
<p>知的財産制度の歴史</p>						
<p>世相</p>						

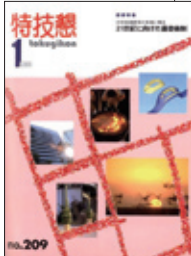



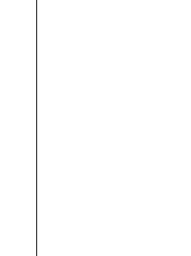




1990-								
1990	1991				1992		1993	1994
H2	H3				H4		H5	H6
153号	155号	156号	157号	160号	163号	165号	172号	175号
<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	<p>「審判あれこれ」</p> <p>「この20年―特許技監の歩み」</p> <p>「改正特許・実用新案法―その運用と活用」</p> <p>特許技監が設置されて20年目を迎えたことを機に、昭和48年からの20年間の、世の中と特許庁を取り巻く出来事を振り返るとともに、歴代の技監からメッセージをいただいた。</p> <p>「日本の繁栄はどこまで続くのか」</p> <p>「動き出した制度改正」</p> <p>「動き出した電子出願」</p> <p>「世界をリードする日本の最先端技術」</p> <p>「科学技術の光と影―地球環境問題にみる―」</p> <p>「WIPOハーモ条約にむけて」</p> <p>「知的所有権ビジネス」</p> <p>知的財産権について、より積極的な利用の流れが生まれてきた中、「財産としての価値」に着目し、権利に対する企業意識、権利の価値評価、さらには技術取引等新たな場での権利活用など様々な観点について、メーカーや商社などの、豊富な経験に基づいた意見を紹介。</p>	
								
							<p>特許法・実用新案法等改正（補正要件の変更／新実用新案制度等）</p>	<p>特許法等改正（外国語書面出願制度導入・明細書の記載要件変更・付与後異議申立制度導入）</p>
		<p>湾岸戦争 バブル崩壊</p>	<p>ソビエト連邦解体 千代の富士引退</p>			<p>皇太子様ご成婚 コギヤル</p>		

1990-															
1994		1995		1996	1997			1998		1999					
H6		H7		H8	H9			H10		H11					
177号		179号	180号	186号	190号	192号			197号	198号	203号	204号	208号		
<p>「ペーパーレスシステム10年」</p> <p>電子出願、検索・登録等の庁内業務処理の機械化、CD-ROM公報の発行等により、「入り口から出口まで」特許情報が電子媒体にのって処理されるようになるまでの十年間の軌跡と、わが国のペーパーレスシステムのまわりを取り巻く環境について紹介。</p>		<p>「知的財産を生み育てる」</p>	<p>「エコ・デザインの前線」</p>	<p>「グラフィカル・ユーザ・インターフェースをめぐる最新動向」</p>	<p>「金融と特許」</p>	<p>「情報化」が行政の方向性を示す一つのキーワードであるとし、政府全体の情報化についての最近の話題と将来像について、また、各国特許庁等の情報化について紹介した。また、回号では、インターネットの審査への活用についても紹介がなされており、審査ツールの拡大の兆しが見て取れる。</p>			<p>「行政の情報化」</p>	<p>「21世紀ビジョン」報告書</p>	<p>「大学における研究と特許」</p>	<p>「活躍する弁理士」</p> <p>弁理士制度100周年を記念した特集。知財環境が激動する中、様々な分野で活躍する弁理士の方々に話を伺った。</p>		<p>「意匠法改正と今後の課題」</p>	<p>「?」著作権+工業所有権 「著作権法100周年を迎えて」</p>
															
 <p>産業財産権制度シンボルマーク (愛称: パテ丸くん)</p>		<p>「パテ丸くん」制定</p>							<p>部分意匠制度導入</p>	<p>パソコン電子出願受付開始</p>	<p>大学等技術移転促進法 (TLO法)</p>	<p>意匠法等改正 (関連意匠制度・部分意匠制度導入)</p>	<p>特許電子図書館の開始</p> <p>産業活力再生特別措置法 (日本版バイドル法)</p>	<p>特許法等改正 (審査請求期間の短縮)</p>	
世相		<p>阪神大震災</p> <p>サリン事件</p>			<p>ポケモン登場</p>					<p>サッカーW杯初出場</p>		<p>厚底サンダル・ガングロ</p> <p>ユニクロブーム</p>			





特技懇誌の歴史

知的財産制度の歴史

世相

2000-								
2000				2001				2002
H12				H13				H14
209号	211号	212号	214号	215号	216号	217号	219号	221号
<p>「21世紀に向けた審査体制」</p> <p>21世紀に向けて審査の量と質を両立させるための取り組みとして、当時進められていた方式審査事務の効率化、商標・意匠審査の迅速化、プロジェクト型審査室などを紹介。</p>	<p>「TLOが動き出した！」</p> <p>(TLO法の制定と共に生まれた国内10のTLOと、米・英・中の技術移転機関を特集)</p>	<p>中央省庁再編を半年後に控え、行政、特許庁が果たすべき役割について論じた。甘利明氏(現経済産業省大臣)、大賀典雄氏(元ソニー会長)へのインタビューを掲載。</p>	<p>「今、行政はなにをすべきか？」</p> <p>「環境と知的財産の新たな関係」</p> <p>「21世紀に向けたバイオテクノロジーへの提言」</p> <p>(発展するバイオテクノロジーと特許制度との関係について)</p>	<p>「情報技術社会・新世紀」</p> <p>(ソフトウェア、ビジネス方法、サイバー空間における権利保護のあり方について)</p>	<p>「司法制度改革の議論の動向」</p> <p>進行中の司法制度改革の議論を追い、専門的訴訟への対応強化など後の知財高裁設立への道筋となる議論を紹介。</p>	<p>「知的財産権の経済的価値」</p> <p>「司法制度改革の議論の動向」</p>	<p>「ブランドと商標」</p> <p>企業の競争力を決定する要素としてブランドに注目が集まる中、商標制度やブランドマネージメント、2000年に加入したマドリッドプロトコルの概要を紹介。</p>	<p>「スポーツと知的財産権」</p> <p>初の日韓共催のワールドカップ、ソルトレイクシテイオリンピックなどスポーツのビッグイベントが開催されることを記念して、メガビジョン、ドーム、サッカーボール、ウェア、シューズ等に用いられていた最新技術を紹介。</p>
								
マドリッド議定書加入 意匠・商標・審判・国際出願手 続の電子化					工業所有権総合情報館の独立行政法人化 第1回世界知的所有権の日(4月26日)			知的財産戦略大綱策定 知的財産基本法成立
高橋尚子、田村亮子ら 金メダル				中央省庁再編	小泉内閣誕生「聖域なき改革」流行語に			小柴昌俊、田中耕一両氏にノーベル賞 FIFAワールドカップ日韓共催大会開催 タマちゃん出現

2000-								
2002		2003		2004			2005	
H14		H15		H16			H17	
226号	228号	229号	230号	231号	232号	233号	236号	238号
「企業における特許出願戦略」	「三極特許制度の比較とハーモナイゼーションの展望」 三極特許協力が開始してから20年経過したことを踏まえ、三極特許制度の比較、三極の具体的な協力内容、ハーモナイゼーションに向けJPOの果たすべき役割を特集した。	「広がり行く知的財産関連サービス」	「知的財産の創造、保護及び活用に関する推進計画」について 2003年知財戦略本部が設置され、初めて取りまとめられた「知的財産推進計画」の概要を紹介。	「特許庁の施策と激動する知財環境」	「知的財産の将来的課題」 231-233号では、知財立国に向けて知財環境が激変する中で、過去15年間で特許庁が展開してきた施策を総括すると共に、知的財産制度が抱える課題を明らかにし、知財制度、審査官・審判官の有るべき姿を考えた。	「望まれる審査・審判官像」	「特許庁70周年記念シンポジウム開催」 海外における模倣品の現状と、政府による対策・特許庁の取り組みを紹介。	「職務発明制度について」 「愛・地球博に参加して」 愛・地球博に特許庁として出展したときの展示やイベントの様子を紹介。
知的財産制度の歴史	特許法等改正（発明実施規定の明確化・先行技術文献開示制度）	知的財産戦略本部発足 知的財産推進計画策定 任期付特許審査官の採用開始	特許法等改正（異議申立制度廃止等）	政府模倣品・海賊版対策総合窓口を経済産業省に設置	特許法等改正（新職務発明制度・審査処理迅速化への基盤強化）		知的財産高等裁判所の設立	商標法改正（地域団体商標制度）
世相				「冬のソナタ」など韓流ブーム			 「愛・地球博」開催	

2000-									
2005	2006				2007				2008
H17	H18				H19				H20
239号	240号	241号	242号	243号	244号	245号	246号	247号	249号
<p>「特許庁の実務と裁判所の実務」</p> <p>知財高裁の設立から半年、裁判の実情をタイムリリーで紹介した。また、裁判所における実務を解説した上で、望ましい審査・審判のあり方を考えた。</p>	<p>「技術の移転と活用の現状」</p>	<p>「身近な知的財産権」</p>	<p>「知的財産立国を目指して ―特許庁長官と若手審査官の座談会―」</p>	<p>「アジアの知的財産」</p> <p>経済発展めまぐるしいアジア諸国において特許出願が増加している状況を受け、中国、韓国、インド、アセアンにおける知財制度、実情を紹介。</p>	<p>「地域の知的財産」</p> <p>「広がる国際審査協力」</p> <p>特許審査ハイウェイの試行を受け、特許庁間の国際的な審査協力について特集。</p>	<p>「任期付審査官座談会・知財立国を支える新たな力」</p>	<p>「知財人材育成」</p> <p>特許庁、企業、教育機関、EPOなど、様々な方面の知財人材育成方法を紹介。</p>	<p>「知財のグローバルな取り組み」</p>	<p>「意匠登録制度120周年を迎えて」</p>
									
	<p>知的財産人材育成総合戦略／日米審査ハイウェイ（試行プログラム）開始</p>		<p>特許法・意匠法等改正（シフト補正禁止・分割制度濫用防止／意匠権の存続期間延長・画面デザイン保護拡充）</p>	<p>小泉首相による特許庁視察</p>	<p>イノベーション促進のための特許審査改革加速プラン2007</p>				
<p>耐震偽装発覚</p>			<p>「トリビアの泉」に特許庁が取り上げられる。（同日に二以上の商標出願があった場合、登録をくじにより決める）結果：69へえ</p>	